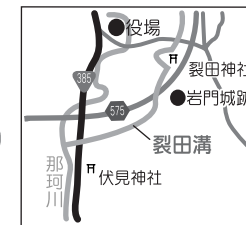


ながわ

那珂川町郷土史研究会

裂田溝25

石碓堰周辺



裂田溝が伝七橋を過ぎて、県道575号の下をくぐったところに「取水口⑩石碓堰」があります。石碓堰は山田区で10番目になる、最後の堰です。ここまでにある9カ所の堰は、川底を石柱で区切り、横板を並べて水をせき止めていました。しかし、石碓堰は鋼製スライドゲートといわれる近代的な堰で、鋼板を上から下に降ろして水の調節をする方法がとられています。ここから裂田神社までの間は、三面側溝の切り立った岸が続く、残念ながら溝沿いを散策することはできません。

また、別の80歳代の女性の話では「裂田溝沿いに『樟脳』を作る作業場がありました。樟脳はクスノキが原料で、小さく裁断したものを蒸留し、その液を冷却すると結晶が分離して出てきます。冷却に使う水は、安

町道山田・松本線は、県道575号が開通するまでは県道としての役割を担っていました。かつてこの道は、平安末期から戦国期に至る歴史を秘めた岩門城跡や、肥前・筑前、大宰府を結んで活躍した武将が通った道でもあり、明治の初めころまでは「さいふ(大宰府)参り」の道としてにぎわった往還でもありました。県道575号の開通工事のとき、この石碓堰の近くで「礪臼」が3個発見されました。正確な発見場所は分かっていません。礪臼の大きさから考えて、もしや裂田溝の水を利用した水車に使われていたのではな

徳の『上ノ原』の池から竹の樋で作業場まで引き入れていました。その工程でできるお湯を風呂に使い、近所の人が共同風呂として利用していました」と語っておられました。「橋-22」は安徳へ行く橋で、この先にある裂田神社の前が山田と安徳の境です。橋から下流は、神社の裏を水路がう回しています。平成17年に「水環境整備事業」第二期工事が始まると、神社裏の「岩壁」周辺の木も伐採し、西側(山田)の竹林の土手も掘り返されて風景は一変してしまいました。

石標を残そうということになり、水利組合長が安徳側と話し合い、承諾のもとに神社裏の水路際に移設しました。平成16年から始まった大改修工事も現在ほぼ完了し、遊歩道を散策する人も日増しに多くなっています。今まで樹木越しにしか見られなかった「岩壁」も正面から見ることができま

コースメモ

70. 取水口 - 10
(いしいかりせき 石碓堰)

71. 橋 - 22
(安徳へ行く橋)

次号へ
橋 - 23 裂田神社前

史跡メモ

龍頭池

礪臼(出土品)

石標

岩壁

安徳台(迹驚岡)

旧とどろき橋

七ヶ村に倅せ運ぶ裂田溝
迹驚岡の歴史を学ぶ

輝雄



裂田神社裏の「岩壁」と「石標」



龍頭池



石碓堰／平成7年に設置。鋼製スライドゲート。幅5.45m、高さ2.4m



県道575号山田・中原・福岡線「城の下」信号



裂田溝沿いで出土した礪臼



橋-22 安徳へ行く橋



発見された石標の前に立つ、故万野勝徳さん(元町議)